

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09030020

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事 業 優 先 度	A	事業期間 平成24年度から平成26年度
単位施策	1 水産資源の保護・増大	政 策 事 務 分 類	3 単独自治事務(その他)	機器導入数 31台
事業名	ほたて稚苗稚貝放流用機器導入事業	見 直 し 年 度		総事業費 86,456千円
事業期間	平成25年度～平成26年度	担 当 課	9 産業振興課	道補助金 22,000千円
事業主体	雄武漁業協同組合	関 係 課	#N/A	町補助金 27,777千円
事業指標	機器導入台数		#N/A	
事業目標	23台	ハート/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働	無	関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	ほたて稚貝放流用選別機器導入に対する補助 を行い、稚苗稚貝の放流を促進する。 ・ほたて稚貝放流用コンベアー機 20台 ・総事業費 60,160千円 ・補助率 1/2	ほたて稚貝放流用コンベアー機 11台 ○事業費 32,458千円 ・町補助金 8,856千円 ・道補助金 13,200千円 ・事業主体 10,402千円	ほたて稚貝放流用コンベアー機 9台 ○事業費 27,702千円 (税抜 25,650千円) ・町補助金 10,800千円 ・事業主体 16,902千円			
	事業費(千円)	32,856	22,056	10,800	0	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	13,200	13,200			
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	19,656	8,856	10,800			
実 績 事 業 費	事業費(千円)	18,900	18,900	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	12,600	12,600			
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	6,300	6,300				
関 連 事 項	特定財源の名称 地域づくり総合交付金	【評価・実績】	(実施内容等) 稚貝放流用選別機器導入に 対する補助 9台分	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	11台	9台		
		年度達成率	86%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
	第6期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	58%	58%	58%	58%
	事業進捗状況	☆☆☆				

事業名	ほたて健苗稚貝放流用機器導入事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田和幸
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	安井雅憲

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	機器導入台数	
【抱える課題やニーズは】	ほたて漁業生産の早期安定化	指標(指標計算式/解説)	目標年度及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地場産ほたて稚貝の健苗化を促進させることにより、ほたて漁業の生産性の向上を図る。	① 機器導入台数	目標年度	平成25年度
			目標値	11台
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	主力漁業であるほたて貝の生産の早期安定・増産体制を確立させ、漁家所得の向上、地域経済の活性化を図る。	②	実績値	9台
			達成度	81.8%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	事業実施団体への助成	ほたて養殖事業において、導入するほたて稚貝選別用機器導入に対し、補助金を支出した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて漁業の振興は、漁業者のみならず水産加工業者など地域経済に影響のあるものであり、本町の水産業を推進させるために必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	健苗な稚貝の放流により、成貝の生存率及び歩留まり品質の向上が期待され、また、作業の機械化により陸上作業時間の短縮、省力化が図られる。なお、導入台数の減については、共同利用等により精査したものであり、当初に掲げた効果は得られている。
	達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	道の補助制度の有効活用及び共同利用等による導入台数の精査により事業費削減を図った。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	費用面においては、事業実施主体も事業費の約1/3を負担しており、また、受益対象範囲としても、ほたて養殖部会全経営体を対象としていることから、公平性が保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
適正な選別を効率化し、成貝生存率の向上が図られ、また、町内業者から機器を調達するため、他業種の活性化にもつながっている。適正台数精査により目標値を下回ったが、計画どおり事業が進んでいる。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
全養殖経営体において導入する必要があることから、継続して実施する必要があるが、平成25年度と同様に共同利用等による必要台数の精査を行う。(平成26年度完了予定)		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止